
隣の男子

知恵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

隣の男の子

【Nコード】

N4908A

【作者名】

知恵

【あらすじ】

純粋な恋愛のつもりです。同姓ですが。興味ないかたはすいません。

「恭介！」

「おう！おはよ！」

翔は恭介の隣についた。

「昨日のト ビア見た？」

「見た！面白かった。」

翔と恭介は同じサッカー部ですぐ仲良くなった。くだらない話で盛り上がったリ、二人で馬鹿なことをして遊んだり。そこら辺にいる普通の高校生と何も変わらない友達・・・だと思っていた。あんなことが起きるまでは。

放課後。

「今日、家寄る？ゲームやろうぜい。」

翔がそういうと、

「えつ。翔の部屋、上がっていいの？」

「うん。当たり前じゃん。何で？」

恭介の耳は赤くなっていた。

「どうした？熱でもあんのか？」

翔が額に手を当てようとしたとき、恭介は手を払った。

「いや。熱ないと思う・・・今日は帰る！」
「えっ・・・」

そう言っで恭介は走り去っていった。

翔はベッドに横たわって考えていた。

（なんだあいつ？耳なんか赤くして・・・まさかあいつホモなのか？俺のことが好きなのか？）

翔はそんなことを考えながら眠りについた。

翌朝。

「昨日のドラマ見た？」
「おう！」

いつも通り恭介。翔は思い切って聞いてみた。

「お前、今好きな人いる？」
「えっ・・・？」

恭介は目を大きくしながらこっちを見た。

「なっなんで？」
「いや。なんとなく。」
「いないよ！！」

少し焦っていた様子だった。

部活の時間になり、恭介と歩いているとき翔が何気なく聞いた。

「なあ、昨日のアレ何？」

「アレって？」

恭介は何かを思い出すかのように考えた。するとどんどん恭介の耳が赤くなっていった。昨日と同じ。翔はさらに問いかけた。

「昨日、俺がお前に触ろうとしたとき、手払ったじゃん？何で？」

「えっと・・・それは・・・」

「お前・・・俺が嫌いなのか？」

「いや！そうじゃないんだけど・・・実は俺っ」

「おーい！何してるんだ？速く来ーい！！」

先輩が俺たちのことを呼んでいた。

「実は・・・なに？」

「いや。なんでもない。あのときの俺はどうかしてました。すみません。」

そっけない恭介の態度に翔はムツとした。

それから、二人はギクシャクしていった。話さないし、目も合わせなくなった。でも、恭介が教室や廊下で誰かと話していると、なぜか嫉妬した。

（いつも俺としか話さないくせに。何ほかの奴と話してんだよ！）

いつも翔の隣には恭介がいた。翔にとっては、とても退屈だった。

翔は気がつくと恭介のことを考えていた。

（恭介・・・今何してんだろう。部活にも来ないし。本当に俺が嫌いなのか？）

そんなのが一週間も続いたある日の部活後。翔は部室の鍵を返し、下駄箱へ向かうと恭介が立っていた。シカトしようと思い、恭介の前を通り過ぎようとしたときだった。翔の腕をギュッと掴んで、キスをした。誰もいない下駄箱。何をされているのか理解ができず混乱していた。

「何ッ・・・すんだよ！」

翔は恭介を押した。

「ごめん。俺さ・・・何か、翔のこと好きみたい。男だってわかってる。でも何か知らないけど、俺・・・」

恭介は耳を赤くしながらさらに言った。

「翔はどう思ってるかわかんないけど・・・えっと・・・だから・・・その・・・そんだけだから！」

翔から目を逸らした。

（なっ・・・何だその顔は！！何か・・・すっげえ可愛いぞ！！！！）

「何か・・・言ってくれませんか？」

そんな恭介を愛しく思った翔は、恭介を抱きしめた。

「ごめんな。俺もなんか知らないけど、恭介が好きだよ。男だけだよ。」

翔は微笑みながら言った。恭介は翔を見つめた。

「俺、翔のこと好きでいていいの？」

「おう！」

翔は恭介の頭を撫でた。

二人は、一緒に帰った。

「一緒に帰るの久しぶりだな。」

「うん。」

変にぎこちない二人だった。

「なあ・・・もう一度聞けど、お前の好きな人誰？」

恭介は耳を赤くした。少し咳払いをし、答えた。

「隣の男の子です。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4908a/>

隣の男の子

2011年1月29日02時24分発行